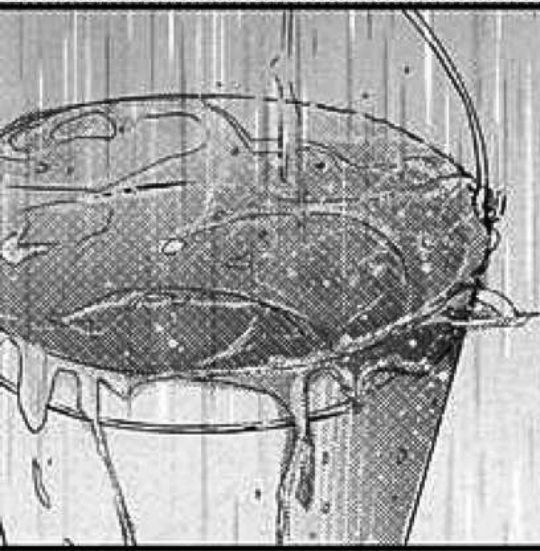






始まりには
終わりがあり
その終わりに
様々な形がある

FIN



積み
積もったものが
崩壊して

雨だれを懇々と集め
いづれ溢れ出す
バケツの水のように

ある
終わりは



ある終わりは

理由を
意識するまでも
なく自然に

大切だったものが
大切じゃなくなっ
ていく

ボクたちの
終止符は

結構
劇的な方だったんじ
ないかな
と思います

そんな中で

「またやりましょう」



「次も その次も 何度でも ——」



あ——

424



現金なら
滞在先に取りに
行かないと

今はこの人数
まかなえる程
持ち合わせては
いないからな

ちよっと
赤司君!

大ちゃんの
言うことなんて
本気にしないで
いいよ!

そういえば
赤司っちどこに
泊まってるんすか?

さっきの
言い方だと
自宅ではないの?

紫っちは
実家って
聞いたけど……

ああ

麻布に
マンションが
あってね

たまに父が
仕事に使用して
いるんだが

丁度練習用の
体育館にも
自宅よりは
近かったから

そこに
泊まっているよ

リッチだなー

麻布なんて

あー

どっちみち俺も
腹減ってるから
焼き肉はともかく
マジバ寄ってくぜ

あ

じゃあボクも
シェイク

いいっすねー!



じゃあみんな
寄ってこようよ！

せっかくだし
親睦深めて
士気を高めよう！

だから何で
オメーが
まとめてるんだよ

あいたっ！

おっと

大丈夫かい？



—はい

わっ！

黒子っち
ごめん！

青峰



黄瀬を蹴るのは
いいがもっとよく
周りを見てからにしろ

いいんすか!?

それ以前のただの親しい関係に戻っていても

寂しさと感じてしまっ

のは

わがままなのだろうか

みんなと以前のよう
に緩やかに和やかに
繋がりたいから

知らなければ

きつと
寂しい
と思わ
なうか
なつん
たて

余計に目立つ
ある一点の
喪失感

だからと言って
そういう
距離感で来いとは
言いませんが…！

おあおあおあ

い



終わった
ことだ

そうだ

誕生日で
集まった時
だって

フツーだった
じゃないか

ボクたちは
友人で

今は期間限定
チームメイト
でもあって

それ以上でも

黒子

それ以下でもない

あの頃の

色々後悔
している部分の
やり直しもできそうな
気がするよ

やり直し……

ですか？

ああ

なかったことには
できないし

過去を否定する
つもりも無いが

「今」で
上書きを
できるのならば

したいものだね

いい思い出を
作りたい

ハァ……



そう

ですね

……うん



二人ともまだ
話し合ってたの？

あら！



熱心ね
いいことだわ！

話は
まとまった？

カントク

はい

今丁度大体
イメージは掴めました

後で私にも
聞かせて頂戴ね

もちろんです

それは
よかったです

施錠しないと
いけないから



悪いけど
キリもいい
みたいだし

んで



今日はもう
解散ね

ゴメン



わかって
しまった



自分のことも
含めて

——さっきので



あの
終わりは

嫌いになった
わけじゃ
なかったんだ

ただ互いが
互いの事で
精一杯だったんだ



—きつと



さっき
カントクが1分でも
来るのが遅れたら

さっきの交差点が
赤信号だったら

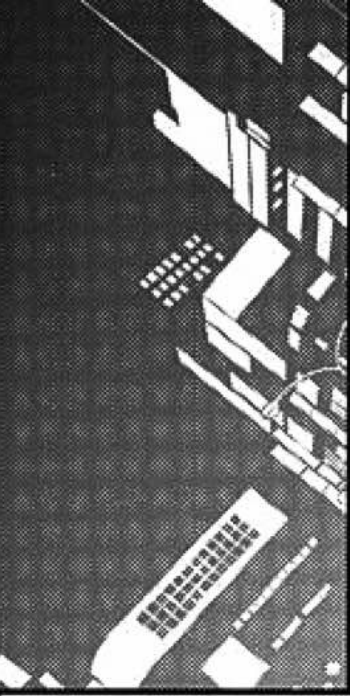
些細なきっかけで
ボク達は
どうにかなくて
しまっただろう

でも

いや

雑念は置いて
おいて
パスケ
します

些細な事は
早々に起こる
事でもない



よし
今日はここまで

だから
きつと
このまま――



今日は
欲しい本の
発売日なので
本屋に

ちょっとマニアック
な本なので普通の
本屋には置いてないと
思います

大きめの本屋に
行かないと……

ふーん

黒子



駅にも本位
売ってるぞ

どこ行くんスか?

それなら
丁度いい

欲しい参考書が
あったんだ

オレも一緒に
行っていいかい？

些細な事…？

縁間君
すみません

何だかこれは
大事な本を
待たせている
気が持たない

あつた
あつた

やっぱり入荷数が
少ない

平積みされて
いるのが奇跡です

赤司君は—

るが
ゆー？





おもしろ
そうだね

黒子の趣味
オレは好きだよ

響く相手と
そうでない
相手がいる





やっぱり
早々に起きない

実は奇跡なんじゃ
ないかと思う

ユニフォーム
できたよー!!

みんな!

ユニフォーム

おー!

即席にしては
なかなかっスね!

テツ君は
これね

さつき
俺んは?

どうも

段ボールの中
じゃない?

大丈夫とは
思うけど

一応試着
してみた

問題があるよう
だったらすぐに
取り替えてくれる
らしいから!





はあ……
……黒子

いや

それは



黒子

何だい？



いい身体
してますね

さっきから
わざとなのか？

え？



いえ

何かおかしい
所でもあるか？



似合ってます

大丈夫です

てゆーか



何がですか？

いいからお前も
早く试着しろ

わ
130°



赤司君が
ここ最近やたらと
ボクの視界に入って
来るだけなんで



小出しに色目
使わずにドゥンと
来いっていうん
ですよ



エロイから



うーし!

それじゃあ今日も
はりきって練習
はじめるとすっかー



さくごきじ



一度はむしろ望んだ筈の「敗北」はいざ突きつけられると地獄の底に落されたような心地で

二律背反する感情が混沌とし

……すまない

RIVAL
ORDS



オレはやっぱりどうしようもなくお前に執着してる



お前明日
いけるのか？

黒子っち
大丈夫？

大丈夫です

かすり傷なんで
びんびんしてます

ただ

おかげで時に
イライラさせられる
のも困りものだな

いたた！

これで終わり
なのだよ

さっすが
縁間っち！

手際いいっす！

消毒
しました
痛いです

これくらい
我慢するのだよ

——まったく

大したことが
なかったから
よかったものの

そもそも
話の通じない
奴らにケンカを売り
にくもんじゃない

ケンカをしに
行ったわけじゃ
ありません

散々桃井から
情報はもらって
いたし

先輩との
試合の様子も
見ただろう？

あーお前が
あんなに
あんなに

ああ言って
何をしてくるか
わからない相手だと
いうことはお前も
わかっていたはずだ

……

走ったら
腹減った

赤司なんか
食いもんある？

あー

人の家にあがって
おいていきなり
なんなのだよ青峰

赤司
さん

たまたま赤司んちが
六本木から近かった
から来ただけだろ

相田監督はまだ
あいつらのこと
面倒見なきゃいけな
かったっすしねえ

冷蔵庫に
一通り食材は
揃っていると思うが…

えっ

赤司っち
自炊してるんスか？

しようと思っ
て色々用意を業者に
頼んだ方がいいが

連日それなりに
疲れていたから
実際はなかなか
うまくいかなかったね

ねー
お菓子も
あるー？

茶菓子も一応
用意はあると
思うが

やったー

そうだ

じゃあ火神君に
ご飯作って
もらいましょう

何が
じゃあなんだよ
お前!?

えっ!
火神っち
料理できんの!?

以外過ぎるっす!

味はボクが
保証します

じゃー肉だ
肉焼いてくれ

あと米

なんでお前に
指図されなきゃ
なんねーんだよ



.....

キッチンが自由に使っていいよ?



うるさいな

びくっ

静かにしろ



あ... 赤司っち何か怒ってる?

あーびび

いや?

別に?

黒ちゃんもバカだねー



暇だな

赤司

黒

赤司

赤司

赤司

赤司何か
おもしろいもの
置いてねーの？

エロ本とか

それはここには
持ってきて
いないな

青峰っち
暇なら手伝ってよ！

お血でも
出して！

くっくっく
ちゅーん

だりーな
オイ

えっ

ちゅ

何？

えって？

いえ……

赤司君も
そういうの
持ってるんだと
思ってる……

オレだって
普通の男だよ

知ってる
だろう？

……

お血を吸って
くっくく

赤司君が
男性なのは
知っていますか

普通よりは
スゴイに分類
されるんじゃない
かと

……そういう
意味ではなくて
でね

……

真

黒子
今のもう一度

赤司君
えっちな本なんて
読む暇あるんですか？

え？

あー
なんかもう
帰りたいー

読む暇
あるんですか？
っていう質問
したんですけど

違う
何を読むのか
の部分だ

えっちな本です

できたぞー

赤司っち
椅子足りないけど
どっかに予備ある？

ああ

それなら
別の部屋にー

何度も言わせる
なっつーんですよ

そーいう
反応に逆に
照れます



何も起こらずに帰って

明日は試合をやって



そのまま赤司君は京都に行ってしまうって



何も変わらずにボクらはまた日常に戻るはずだ



人事を尽くさぬものには運命の女神は微笑まない





携帯電話を

忘れて
しまいました



抜けているな

しっかりしろよ

まだ片付けが
済んでいなくて
気がつかなかった

すみません

楽しくて
はしゃぎ過ぎて
いたみたいです



あがってくれ

お邪魔します

どこに置いた?

リビングの
テーブルの上に
でも置いたと思った
んですが



黒子?

ガ
チャ
...

どうした?

時には気まぐれも起こす



あった

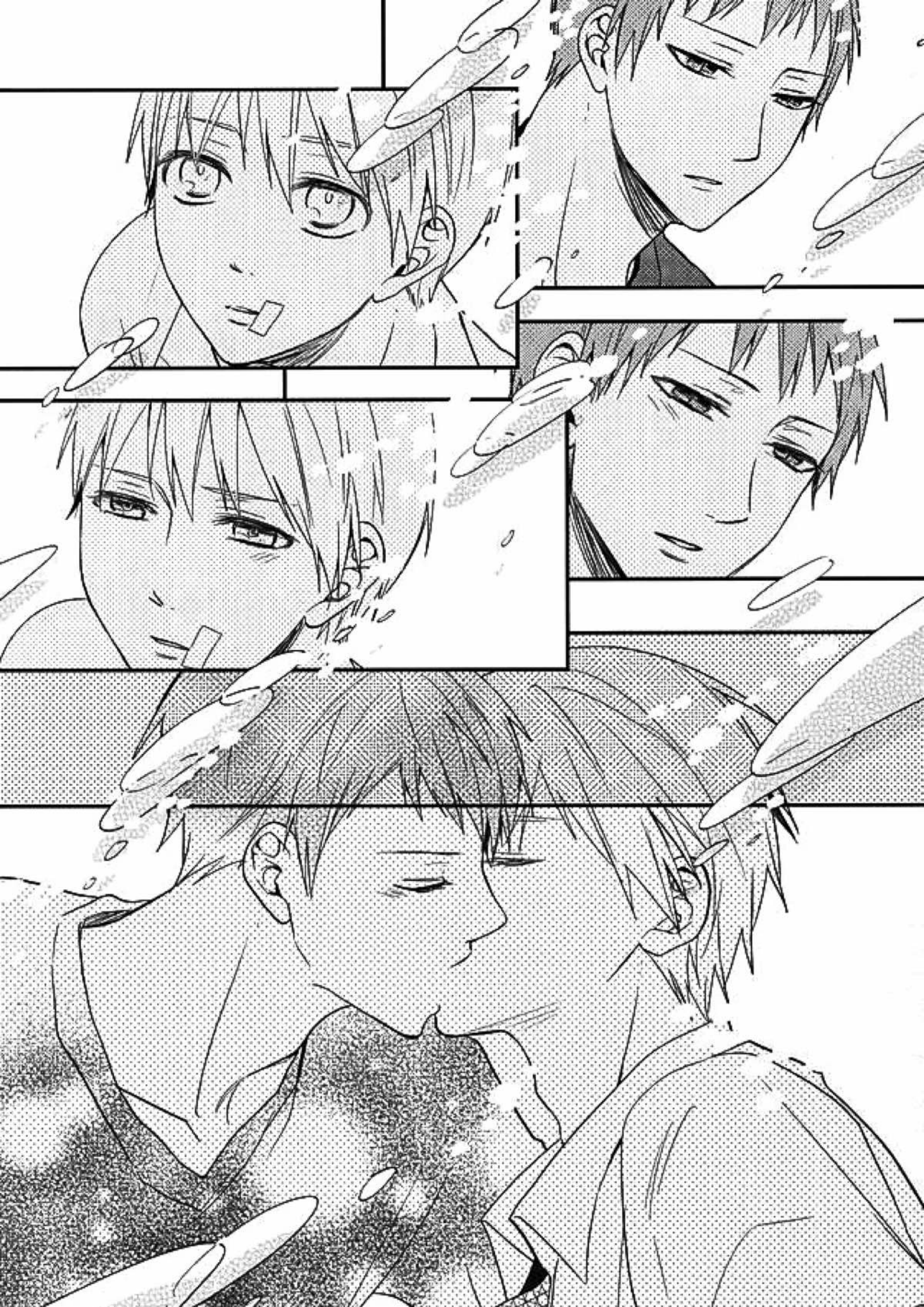
これだろうか？

あ

ハイ

それです

ありがとうございます
ございます







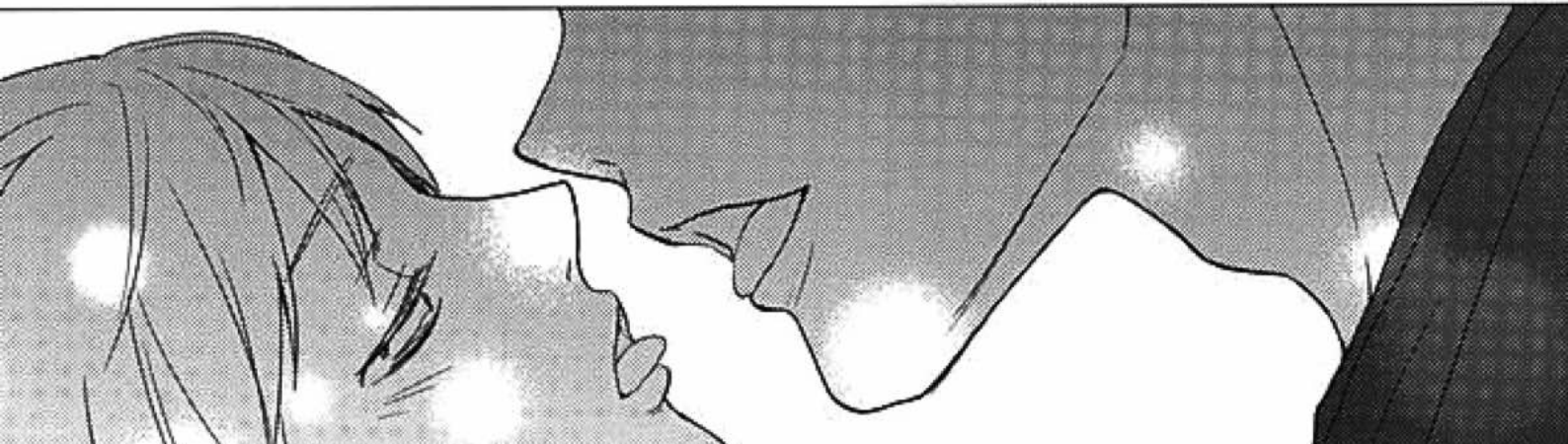
スイッチが入るのは



本当に突然で



止まらなくなる



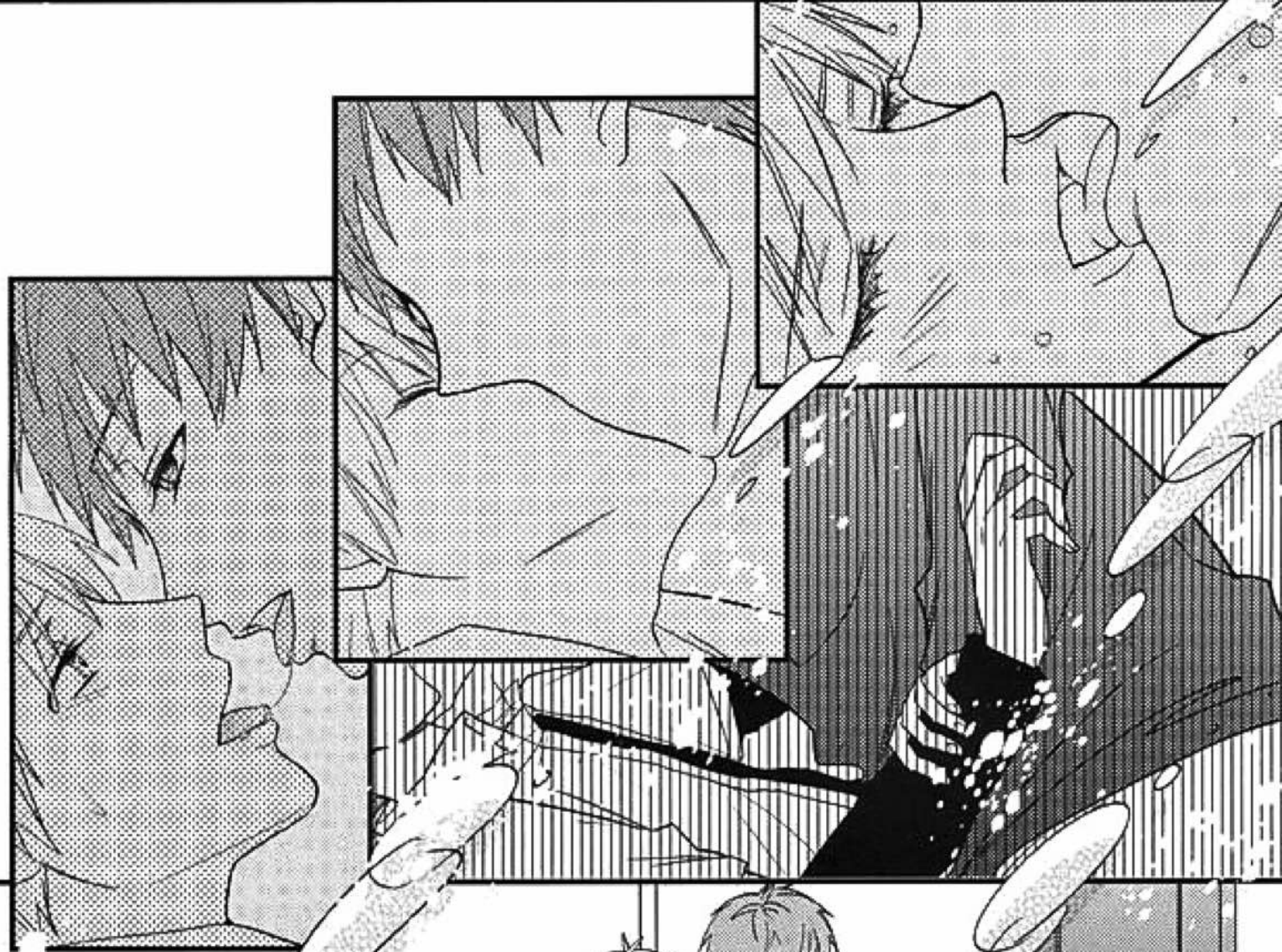


それは _____



今までの距離を埋め合わせるかのように早急で







明日

あるし

ハイ

久しぶり

だし

ハイ

無理

させないから

……ハイ



その暖かさも

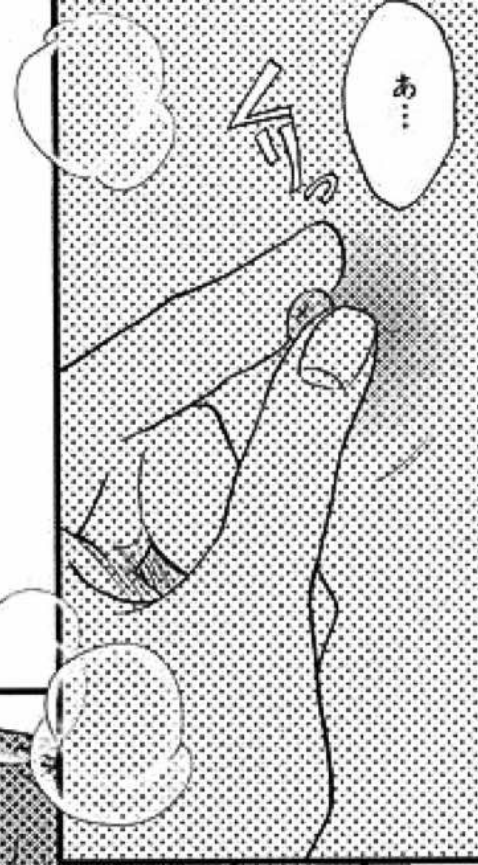
あ

触れ方も



吐息も

ハッ...



知ってる

あ...

ん...



ボクは知っている









大丈夫か？

んっ……

やっばり……

……んっ

すまない



さへっ

だから
当たってます

するから

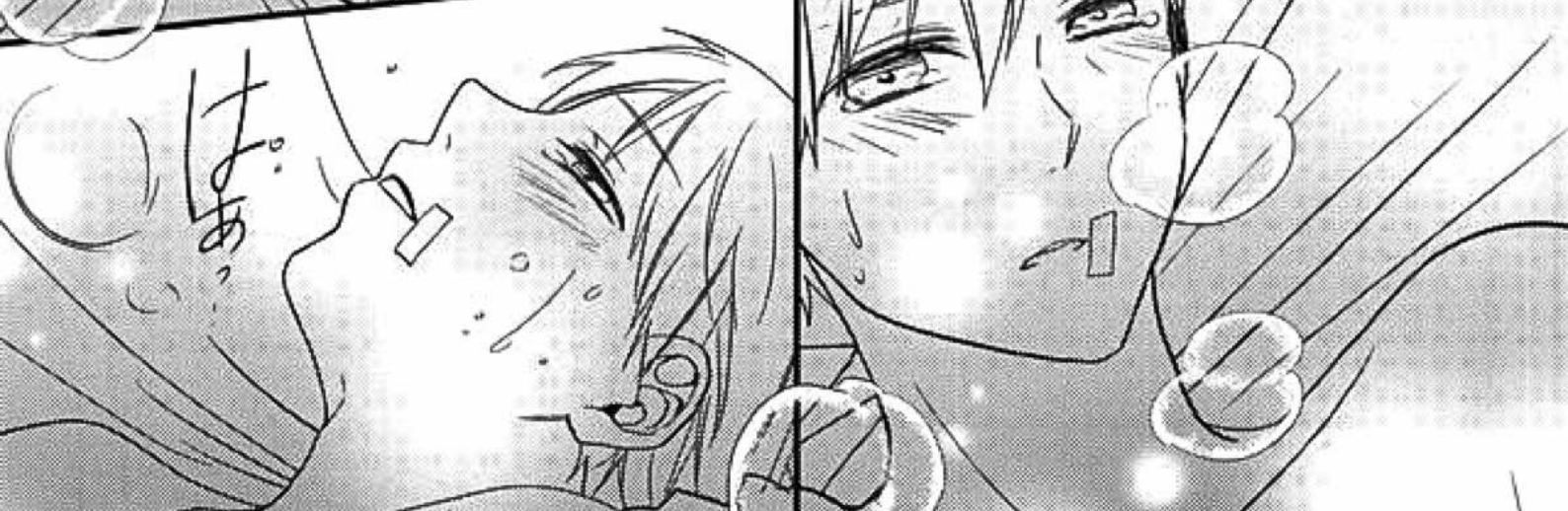
はあ……

あっ……！

ほっ……





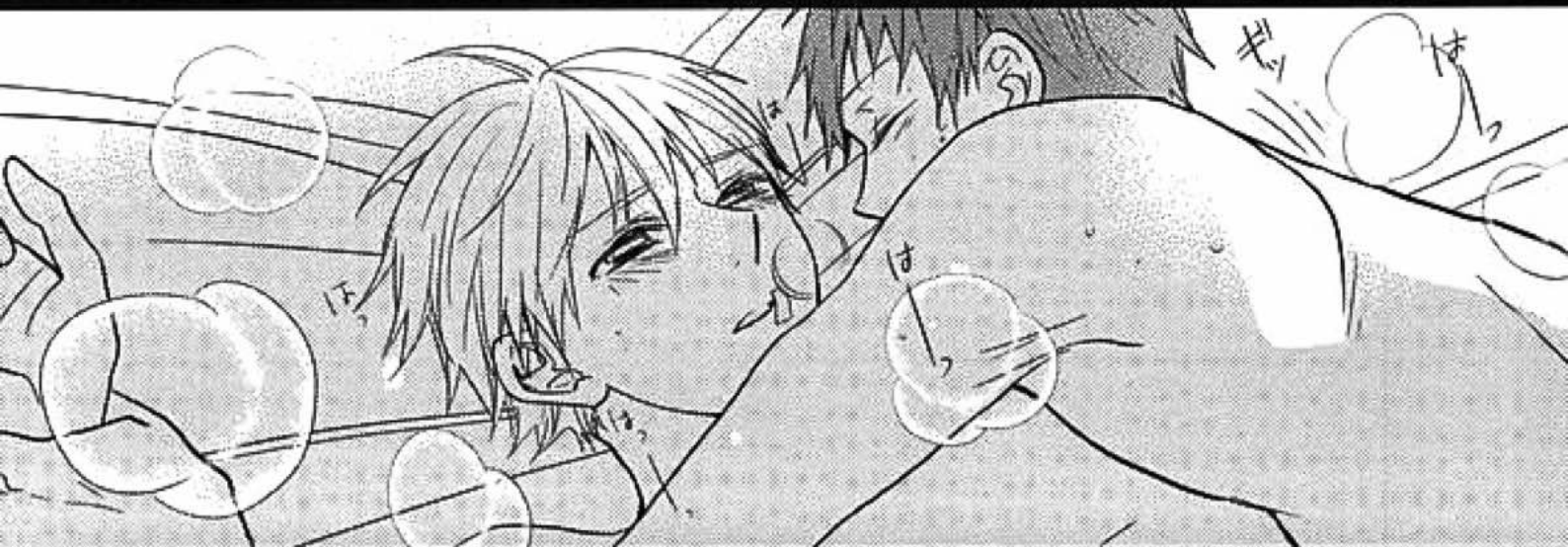








攻め立てられているにもかかわらず



征服欲が満たされる



距離感を
伺いながら

虚しいじゃ
ないですか

予防線を
張りながら

顔色を
伺うの

うん

接するの

……うん

知っているよ

お前が
思い切りのいい
性格だけじゃ
ないのは

知っているよ

繊細なもの

なのに

キムは

ひとこ

ちゃんと
スル準備は
してあるし

すまない

わけが
わからない

すまなかったよ



色々お前を
傷つけたのに
元通りなんて

なんて
虫のいいーと

でも
それは

うん



そう
それは

それを理由にして
オレがきつと
お前の答えを
恐れていた
だけで

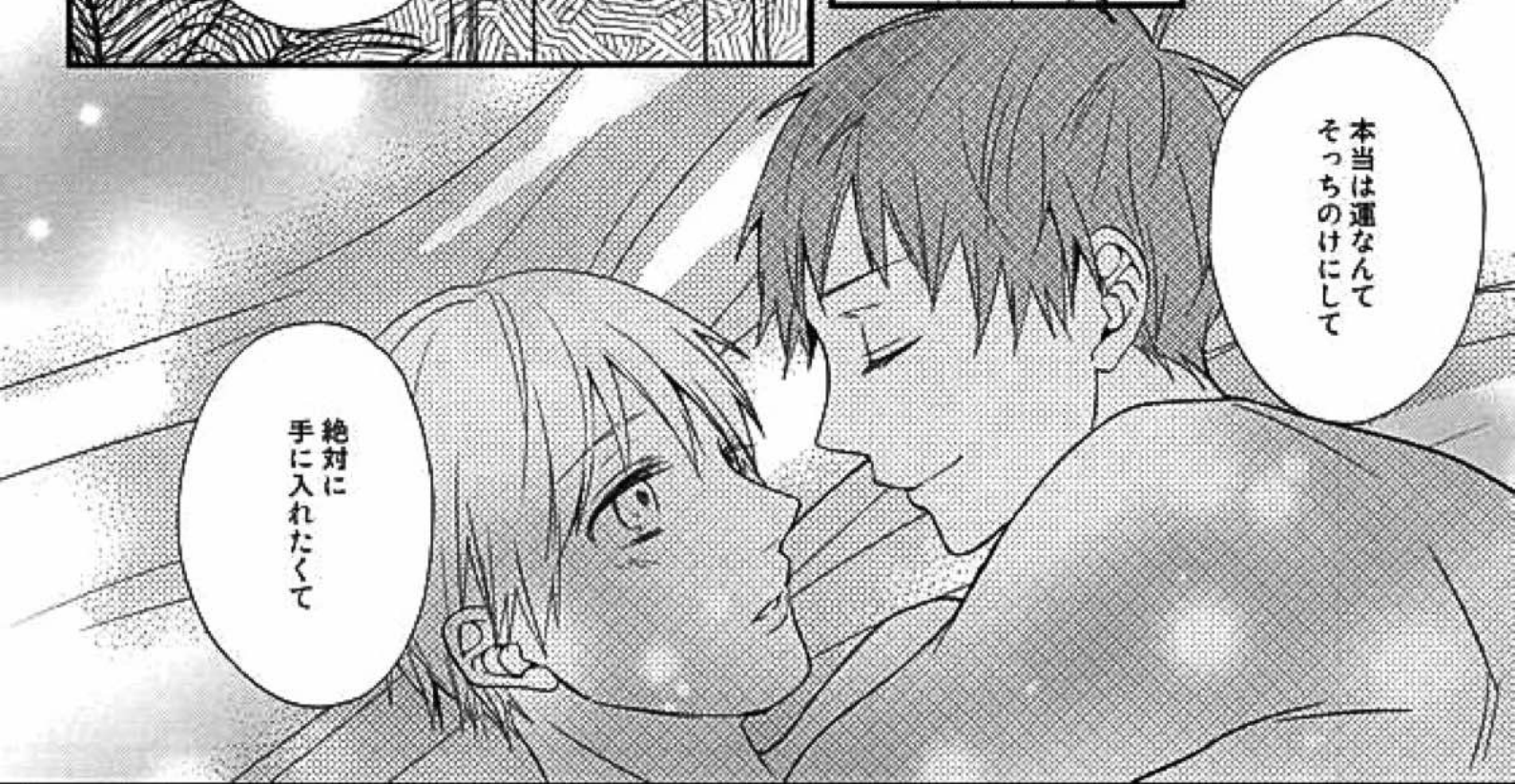


お前とまた
こうなりたいと
思っていたのは

そうして運が
向かなかったら

運任せな部分も
あったと思っていた

それは自分への
罰なんだと
思っていた



本当は運なんて
そっちのけにして

絶対に
手に入れたくて



——今日は



何もなくなんて
終わらせる気は

きつと毛頭
なかったんだ

……



凄く
むかついたし

すみません

あいつら
殺したかった

物騒です



しゃん



……赤司君

うん？

明日
頑張りましょうね

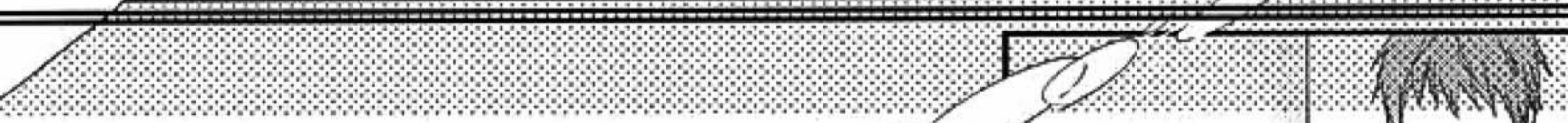
うん

絶対
勝ちますから

ああ



当然だ



優しくしてくれて
有り難うございます

ハイ

……



身体

大丈夫かい？



黒子

明日の試合が
終わったら

—— ああ そうい

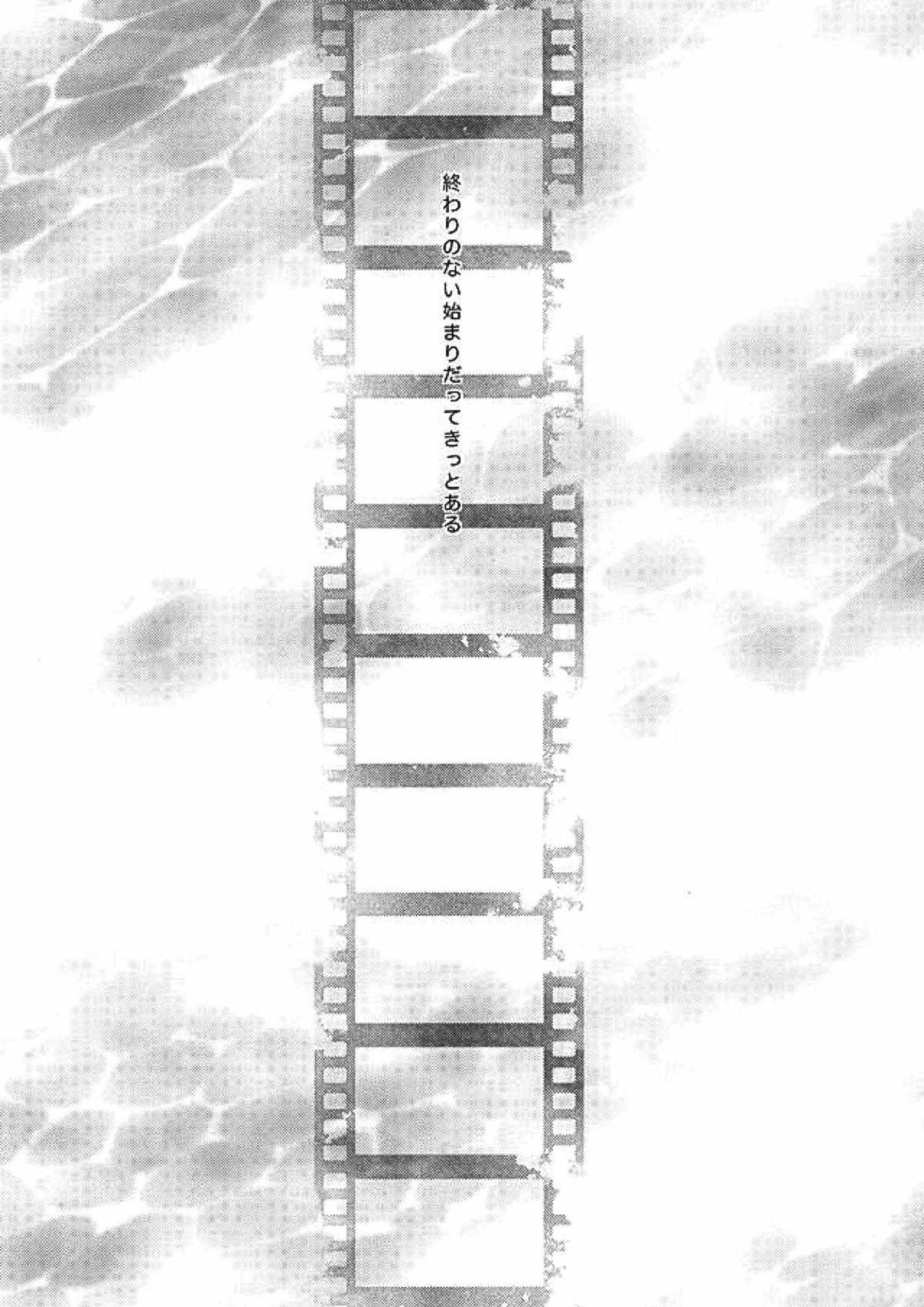


ボクらはまたボクたちの・これから・を考えてもいいんだ

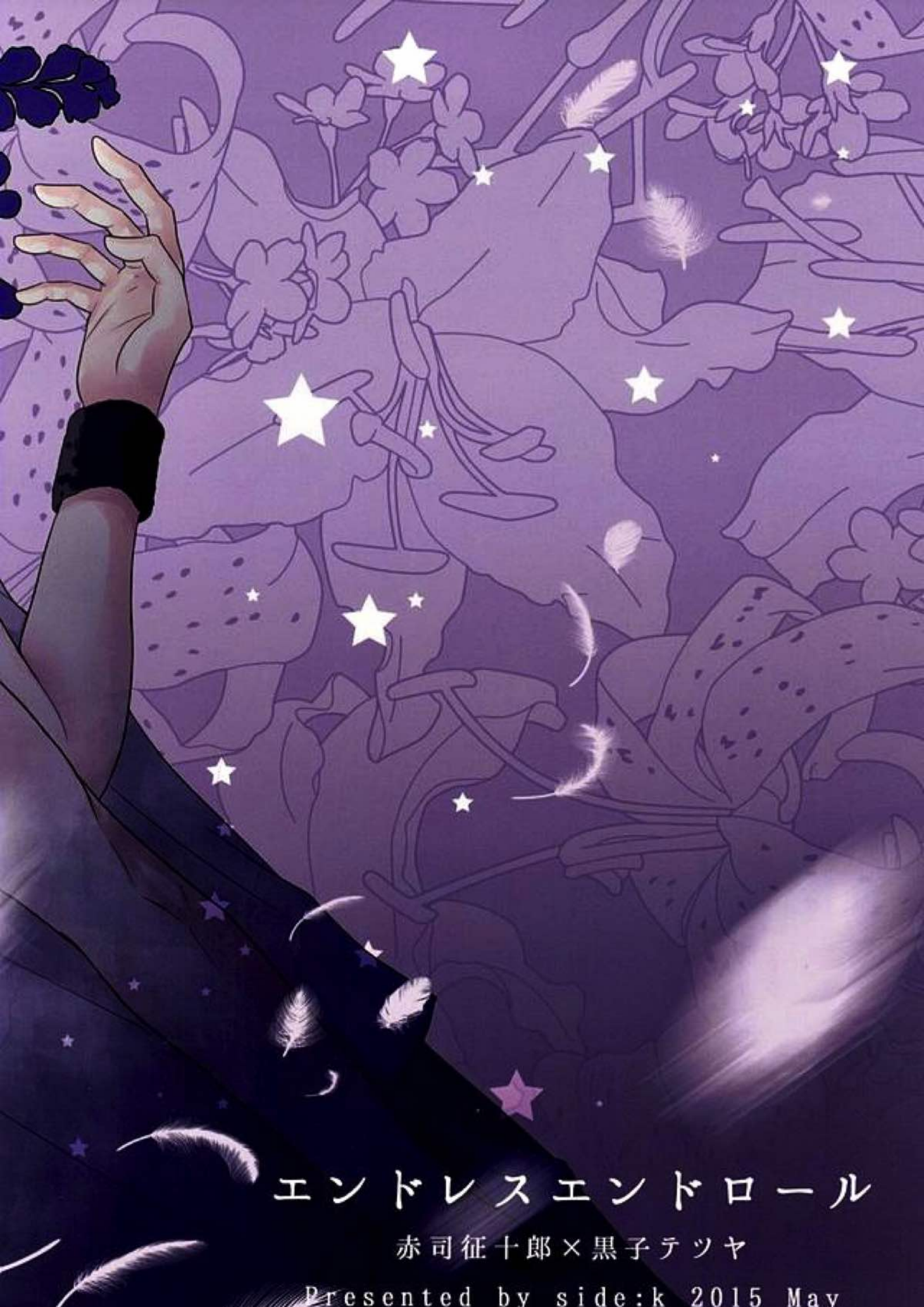


終わって

なかったんだ



終わりのない始まりだってきっとある



エンドレスエンドロール

赤司征十郎×黒子テツヤ

Presented by side:k 2015 May